# 技術解説

## ユーザビリティテスト

**【キーワード】**ユーザビリティ、エキスパートレビュー、行動観察

**【はじめに】**

人と関わる製品やサービスでは、実際に利用者が使用して問題がないかを事前にテストすること(ユーザビリティテスト)が重要です。JIS Z 8521:2020 では、ユーザビリティ（usability）を、「特定のユーザが特定の利用状況において、システム、製品又はサービスを利用する際に、効果、効率及び満足を伴って特定の目標を達成する度合い」と定義しており、目標達成における正確さ、効率、満足度等がその要素となっています。

**【ユーザビリティテストの方法について】**

製品やサービスの開発初期段階でテストすることは非常に有効です。最近はモックアップやパワーポイントのスライドショーを活用したテストで、３～５人位の利用者を参加させるアジャイル方式（少人数で短期間のテストを繰り返す）が注目されています。また、設計がユーザビリティガイドラインに合致するかどうか専門家にレビューしてもらう方法（エキスパートレビュー）もあります。

ユーザビリティテストには、利用者が一定のタスク（作業目標）を達成するまでの間の行動観察を行い、ビデオやチェックリストで行動や状況の変化などのパフォーマンスを記録する方法があります。当所が発案した方法を基に開発した OBSERVANT EYE®というソフトウエア（図 1）では、タスク毎に掛かる時間等の行動観察記録を効率的に行うことができます。当所では、ユーザビリティテストを行う企業の相談対応と技術支援を行っています。図 2 は介護動作支援システムのユーザビリティテストの事例です。

図 1　OBSERVANT EYE®を用いた
行動観察記録用画面の 1 例

図 2　介護動作支援システムの
ユーザビリティテストの事例

お問い合わせ先　静岡県工業技術研究所
ユニバーサルデザイン科
電話 054－278－3024